

盤種類
以原實爲名

當世は宗和なり下ぐりといふをせうぐわんす、新しくかた地にさすれば、萬事一通りそろへて、廿人まへにて、六百匆かゝる、玄んさい橋道具やを、せんさくすれば、そりわん、ねごろ物、貳百五六十匁にては有なりわろし、然どもかたさは、石同せん、つかふて大ぶん徳なり。

〔續日本紀三十五〕寶龜九年十月乙未、遣唐使第三船到泊肥前國松浦郡橋浦、判官勅旨大丞正六位

上兼下總權介小野朝臣滋野上奏言、臣滋野等去寶龜八年六月二十四日、候風入海、七月三日、與第

一船同到楊州海陵縣略○中三月廿二日於延英殿對見、所請並免、即於內裏設宴、官賞有差、四月略○中

二十四日、事畢拜辭奏云、本國行路遙遠、風漂無准、今中使云往、冒涉波濤、万一顛躓、恐乖王命、勅答朕

有少許答信物、今差寶英等押送、道義所在、不以爲勞、即賜銀鏡酒、以惜別也。略○下

〔三代實錄四十三〕元慶七年五月三日戊辰略○中內教坊奏女樂妓女百三十八人遞出舞、酒及數杯別

賜御餘枇杷子一銀椀、大使已下起座拜受。

〔觀世音寺資財帳〕觀世音寺嘉保口年寶藏實錄日記

一見在 第一韓櫃略○中 銀鏡貳口

前帳云、二口有蓋各一枚、全者今檢見在四足中、二口有蓋、二口無蓋、永保三年帳云、見在銅鏡有二、衍口并

蓋非銀鏡、寬治六年帳云、今檢同。

〔延喜式五〕年料供物

銀鏡一合御料長用

〔竹取物語〕天人の粧ひしたる女、山の中より出來て、銀のか。な。ま。る。をもちて、水をくみありく、

〔落窪物語三〕衛門の尉はかうむりを得て、三河の守に成にければ、衛もんはたゞ七日がほどいと

ま申て、將てくだりけるに、女君旅のぐ、玄ろがねの金盃一ぐ、さうぞくよりはじめて、いと細しく

なんしてくだし給ひける。